

展開案（1 / 3 時目）〈小学校〉

- ◆本時のねらい：「強み」に着目した交流活動を通して、自分や友達の「強み」を知ることができるようにする。
- ◆本時のめあて：自分や友達の「強み」を知ろう。
- ◆本時の展開（※）については、授業者がスライドに加筆したり授業者自身の言葉で思いを伝えたりして、スムーズな活動につなげたり、学習への理解を深めさせたりすることもできます）
- * ワークシートや振り返りシート等をまとめるもの（ファイル等）を準備します。

学習活動	ｽﾗｲﾄﾞ	指導上の留意点
1 3時間の学習活動の目標を知る。（1分20秒）	1	※ 【スライド1】に学級のめあて等を示すことにより、目標を共有しやすくする。
2 話を聴くときの約束を知る。（1分）	2	・3回の授業で、自分や友達の「強み」を見付けて伝え合う活動を通して、自分や友達の「強み」を知り、これから生かしていこうとする学習をしていくことを伝えることにより、活動への見通しをもつことができるようにする。
3 本時のめあてを知る。（2分）	3	・「話をきくときの約束」を伝えることにより、安心できる雰囲気の中で互いの思いや考えを伝え合うことができるようにする。
4 「強み」について知る。（1分10秒）	4	・めあてを板書して、確認したり振り返ったりすることができるようにする。
5 「自分ウェビング」の交流活動（3人*）を行う。（33分15秒）	5・6	※ 「強み」の考え方と「強み」のポイントを、児童とのやりとりを通して児童が理解できるような平易な言葉で伝える。
(1) 自分に関すること（好きなものや苦手なことなど）を書く。活動①	7	※ 授業者自身に関する「自分ウェビング」を作成して、「自分ウェビング」の方法を伝えると同時に、教師自身が苦手なことも含めた自己開示をすることにより、児童の自己開示を促す。
(2) グループの友達のワークシートに、友達の「強み」を考えて書く。活動②	8	・自分のことについて書くことをためらったり恥ずかしいと感じたりする児童に配慮して、書きやすいところから思い付くままにどんどん広げて書くように伝える。
	9～15	・「～が苦手」に着目させ、その後のウェビングが意欲等につながっていることを示すことにより、考え方や生かし方次第で「強み」になることに気付くことができるようにする。
		・「自分ウェビング」の中から、まず、友達の「強み」と思えることを見付ける活動を行うことにより、「強み」の考え方を理解しやすくする。
		・交流活動がスムーズに進むように、活動時間を知らせながら時計回りにワークシートを回すように指示をする。
		・期待感をもたせるために、2人目まで終了したら、ワークシートを裏返しにして、教師の合図で本人に渡すようにする。

<p>(3) 友達を書いてくれた「強み」と「自分ウェブページ」を参考に、自分の「強み」を考えて書く。 活動③</p> <p>(4) 自分と友達の「強み」を伝え合う。活動④</p> <p>6 本時の活動を振り返る。 (6分)</p> <p>(1) 振り返りシートに記述する。</p> <p>(2) 全体で気づきを伝え合う。</p> <p>7 次の活動を知る。 (15秒)</p>	<p>16~19</p> <p>20</p> <p>21</p>	<p>※ 児童の活動の様子や教師が気付いたことなどを肯定的にフィードバックすることにより、温かい雰囲気づくりにつなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達を書いてくれた「強み」を参考にしてもよいことを伝えることにより、自分の「強み」を書く抵抗感を軽減する。 ・「強み」の書き方を具体的に例示することにより、自分の「強み」を書く活動の見通しをもちやすくする。 ・話すときに気を付けることと「話をきくときの約束」を確認することにより、安心できる雰囲気の中で「強み」を伝え合うことができるようにする。 ・「強み」を伝え合うことにより、互いの「強み」を知ることができるようにする。 <p>20</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあてと活動を確認することにより、学習した内容を具体的に振り返ることができるようにする。 ・気付いたことや感じたことを全体で発表する場を設けることにより、自己理解や他者理解を深めることができるようにする。 <p>※ 授業全体を通じた児童の活動の様子や教師が気付いたことなどを肯定的にフィードバックしたり、学級や児童の実態に応じて学習内容を具体的に意味付けたりすることにより、学習の効果を高めることができるようにする。</p> <p>21</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次の時間も「強み」について学習することを伝え、興味や関心を継続できるようにする。 ・「強み」に着目した交流活動に意欲的に参加をした自分や友達に拍手をするなど、互いのことを思いやる気持ちを称えて、温かい雰囲気で授業を終わる。
--	----------------------------------	--

◆評価の視点：「強み」に着目した交流活動を通して、自分や友達の「強み」を知ることができたか。

◆板書計画

The board is divided into several sections:

- Top Left:** 「話をきくときの約束」 (Rules for listening):
 - 話し手を見て
 - 関心をもって
 - 最後まで きく
- Top Center:** めあて：自分や友達の「強み」を知ろう (Objective: Know your own and your friend's 'strengths').
- Top Right:** 「強み」って 何だろう? (What is 'strength'?).
 - 考え方、行動、からだ など
 - 自分に あるもの
 - 自分が もっているもの
- Middle Left:** 「強み」のポイント (Points of 'strength'):
 - プラスに思えること だけでなく
 - マイナスに思えること もふくめて
 - 「強み」と考える
- Middle Center:** 活動① (Activity 1): 「自分ウェビング」 (Self-webbing). Includes a diagram with terms like 'サッカーの試合に勝つとうれしい', '読書が好き', 'スポーツが得意', '海外旅行に行きたい', '英語が得意', '友達と一緒に遊ぶことは楽しい', 'わたし', 'カラオケは苦手'.
- Middle Right:** 活動③ (Activity 3): 「自分ウェビング」 (Self-webbing). Text: 「自分の「強み」を見つけよう ぼく・わたしの「強み」は…」
- Bottom Center:** 活動② (Activity 2): 「自分ウェビング」 (Self-webbing). Text: 「友達の「強み」を見つけよう」
- Bottom Right:** 活動④ 伝え合い (Activity 4: Sharing).

【ふり返り】

・ 児童の発言

・
・
・

いつでも確認できるように、「話をきくときの約束」「強み」の考え方」「強み」のポイント」を掲示しておきます。

活動の流れが一目で分かるように、活動名とワークシートを拡大したものを提示します。

振り返りを全体で共有するために、児童の発言を板書（・）します。

◆授業前の取り扱い

- ＊ 交流活動におけるグループの人数は3人編成が望ましいが、3人にならない場合は、4人グループを編成する。その場合、ワークシートを回して行う活動では、指示通りに活動を進めて、2人回したところで終了する。
- ・ グループを意図的に構成し、児童の心理的な負担を減らすように配慮する。
- ・ (例) 授業前や導入において、構成的グループエンカウンターを行うことにより、親和的な雰囲気づくりが期待できる。

◆授業後の取組例

- ・ 学級通信等で学習活動や児童の感想を紹介し、家庭でも言葉掛けをしていただくようにする。
- ・ 教師がワークシートに目を通した後に、教室に掲示する。
- ・ 教室に「強み」コーナーを設けて、見付けた友達の「強み」をカードに書いて貼らせ、学級全体で共有できるようにする。
- ・ 学年集会や学年掲示板で紹介する。
- ・ 行事と関連させる。